

市町村職員専門研修②(兼)公民館等職員専門研修② 実施レポート

実施日：令和2年10月7日(水) 10時～16時 会場：県生涯学習センター 参加者：35名

行政職員や公民館等職員の知識や技術の向上を図るため、「市町村職員専門研修(兼)公民館等職員専門研修」を実施しました。合同開催となった今回の研修のテーマは、『障害者の生涯学習×公民館の防災』です。

【講義】「避難所設営体験」・「障害者の視点による街歩き」実施報告

当センターの進藤 尊信社会教育主事が、公民館等職員専門研修①で実施した「避難所設営体験」と、市町村職員専門研修①で実施した「障害者の視点による街歩き」の概略を説明しました。今回の研修は市町村職員専門研修と公民館等職員専門研修とを兼ねており、午後の講義・演習・熟議で「障害者の生涯学習×公民館の防災」について学び、議論を行う際のレディネスを揃えることを目的として行われました。

【講義】障害者の生涯学習×公民館の防災

午後は最初に、日本赤十字秋田短期大学講師の及川 真一先生が、「なぜ『障害者の生涯学習×公民館の防災』が必要なのか」のタイトルで講義を行いました。及川先生は、『被災者』として一括されやすいが、性別、性別自認、年齢、障害の有無、国籍や母語の違い、家族構成や就労状況によって必要とされる支援が異なること、避難所の運営には段階的かつ確実に「質の向上」を目指さなければならないことなどを、自身の被災体験や他地域での被災者支援等の具体的な経験を交えてお話してくださいました。また、防災に関わる手話・指文字や多様性、「公平」と「平等」の違いなど、障害者と防災に係るトピックスについても教えてくださいました。



指文字を勉強中

【演習】本格手洗い

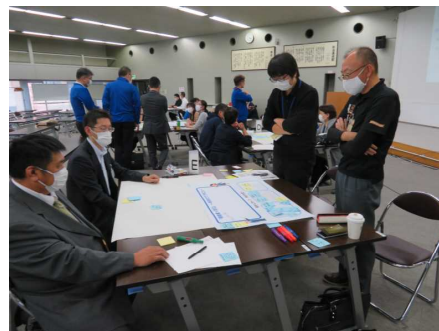
続いて、及川 真一先生の指導のもと、「すべての基本 感染防止・本格手洗いのススメ」のテーマで、手洗いの重要性を学びました。手洗いチェッカーとブラックライトを利用し、どのように手洗いを行えば手の汚れを落とすことができるのかを実体験しました。手洗いチェッカーを手に塗ったあと、及川先生の「いつものやり方で手を洗ってきてください」との指示を受け、参加者は手を洗いました。しかしブラックライトで照らすと手洗いチェッカーは全く取り除けておらず、皆大変驚きました。この手に付着していたものが新型コロナウイルスだったとしたら、知らないうちに感染し、感染を拡げている可能性がある…実感をもって知ることができました。



いつものやり方では汚れが落ちない…

【熟議】障害者×防災

最後に、及川 真一先生と当センターの柏木 睦主任社会教育主事による、『障害者×防災』～市町村でできること～をテーマとした熟議が行われました。話し合いの中で、「障害者のニーズに応じた環境づくり」の必要性や、「市町村対抗手洗いオリンピック」、「福祉施設・学校との合同避難訓練」の実施、「備蓄deビストロ」(期限切れが近くなった備蓄食材を利用した料理コンテスト)や「防災deお泊まりナイト」など、障害者と防災とを結びつける、市町村が取り組んで行けそうな様々な意見が出されました。



【参加者の声】(抜粋)

- ・発想の転換：マイナスイメージ濃い「避難」を「楽しいサバイバル」に置き換えられる。一般住民にも普及させたい。事業としてプログラムしたい。
- ・資料での障害者防災は知っていたつもりだが、現実には災害が起こったら…ということを知ることができた。
- ・車いすの利用、ビデオ視聴をして、障害理解ができた参加者が多い研修と思いました。参加者が勤務地に戻り、障害者の方々へ自分が何ができるか考える機会になればよいと思います。